

Senzoku Gakuen College of Music
Green-Tie Wind Ensemble

洗足学園音楽大学
グリーン・タイウインド・アンサンブル
演奏会



2020.12.01. Tue. 19:00 開演
18:30 開場

洗足学園 前田ホール



主催

洗足学園音楽大学・大学院



新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場して下さい。
- ・客室内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

電子プログラムについてのお願い

- ・ロビーに掲示された二次元バーコードにより、ダウンロードしてご覧ください。客席内は電波を遮断しておりますので、ダウンロードは、ロビーなどインターネットに繋がる環境にてお願いします。
- ・演奏中のスマホ、タブレット端末等電源オフの必要はありません。ただ、不用意に音が出ないように留意願います。
- ・基本的には、演奏中のプログラムの閲覧はご遠慮いただき、ぜひ、演奏に目や耳を傾けていただけたらと思います。しかし、もし演奏中にプログラムをご覧になりたい場合には、周りのお客様のご迷惑にならないよう、画面の明るさなどに注意を払っていただけたらと思います。
- ・本日の「電子プログラム」についてのご意見、ご感想を含めました電子アンケートをご用意しております。演奏会終了後、右のURLよりお進みいただき、ぜひご協力をお願いいたします。

洗足学園音楽大学 グリーン・タイ ウインド・アンサンブル 演奏会

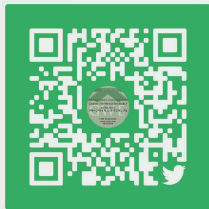
ご来場いただきありがとうございます。
最後までごゆっくりお楽しみください。
なお、アンケートのご協力をお願いします。
グリーン・タイ ウインド・アンサンブル一同



<https://forms.gle/mUMFbuormWDwcAev9>

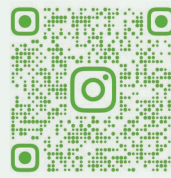
グリーン・タイ ウインド・アンサンブルのSNS

Twitter



https://twitter.com/GWE_senzoku

Instagram



SENZOKU.GWE

<https://www.instagram.com/senzoku.gwe>

ぐりんぐりん吹奏楽!Green-Tie Tube

 YouTube



youtube.com/channel/UCRftQe1Oz4AsMW_2XiFd9ag

Facebook



<https://www.facebook.com/senzoku.gwe/>

コロナウイルスの蔓延により世の中が一変してしまい、わたしたちの日常生活に日々不安を感じる中、本日は洗足学園音楽大学グリーン・タイウインド・アンサンブル演奏会に足をお運びいただき、感謝に堪えません。

「コロナ対策」に万全を期しつつの演奏会のため、ご来場のお客さまには何かとご不便、ご不自由をおかけする面も多々あるかと思いますが、どうぞご容赦いただきまして、演奏会を最後までごゆっくりお楽しみいただけたらと思います。また、本日は声援などはできませんが、代わりに、一年間この苦境の中を頑張ってきた学生たちに、万雷の拍手をお送りいただけましたら幸いです。

さて、本日は、印刷物の配布がありません。

それに代わり、本学初の「電子プログラム」を導入させていただくことになりました。表紙裏の注意書きページの要領にてダウンロードいただきご利用ください。

もしご不便をおかけするようでしたら申し訳ありませんが、次回以降の改善につなげたいと考えています。

ちなみにこうした電子プログラムは、シンガポールなど諸外国では一部取り入れられているようですし、客席内でのスマホ等の利用についての制約も緩い国々もあるようです。本日のコンサートでの試みにぜひご協力を賜われましたら幸いです。

なお、演奏中の写真撮影はご遠慮いただきますようお願いいたします。

グリーン・タイウインド・アンサンブル授業運営責任者 伊藤康英

アンケートへのご協力をお願いいたします



<https://forms.gle/mUMFbuormWDwcAev9>



指揮：藤岡幸夫 Fujioka, Sachio

関西フィルハーモニー管弦楽団 首席指揮者
Principal Conductor of the Kansai Philharmonic Orchestra

東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団 首席客演指揮者
Principal Guest Conductor of
the Tokyo City Philharmonic Orchestra

1962年東京生まれ。故・渡邊暁雄の最後の愛弟子。サー・ゲオルグ・ショルティのアシスタントを務める。日本フィル指揮研究員を経て1990年に英国王立ノーザン音楽大学指揮科に入学。奨学金特待生に選ばれる他、数多くの賞を受賞。1992年マンチェスターにて最も才能ある若手英国人指揮者に贈られる「サー・チャールズ・グローヴス記念奨学賞」を日本人にもかかわらず特例で受賞。

1993年BBCフィルの定期演奏会に出演し「タイムズ」紙などで高く評価され、翌1994年副指揮者に就任。同年、ロンドン夏の風物詩「プロムス」にBBCフィルを指揮してデビュー、大成功を収める。以降ロイヤル・フィル、ロイヤル・リヴァプール・フィル等多くの海外オーケストラに客演。スペインでのオペラ公演デビューとなった2006年スペイン国立オヴィエド歌劇場プリテン「ねじの回転」がその年の同劇場の新演出オペラのベスト・パフォーマンス・オブ・ザ・イヤーに選ばれ、2009年にはR.シュトラウス「ナクソス島のアリアドネ」で再び脚光を浴びた。2016年3月にはブリュッセルでオーギュスタン・デュメイ、ヴァレリー・アフアナシエフと共演。2017年5月にはアイルランド国立交響楽団にマーラーの第5交響曲で客演、聴衆総立ちの大成功を収めた。

マンチェスター室内管弦楽団首席指揮者、日本フィルハーモニー交響楽団指揮者を経て、現在関西フィルハーモニー管弦楽団首席指揮者、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団首席客演指揮者を務める。毎年40公演以上を共演し2021年に22年目のシーズンを迎える関西フィルとの一体感溢れる演奏は常に高い評価を得、2019年4月に就任した東京シティ・フィルとの今後の活動にも大きな期待が寄せられている。

英シャンドスと契約し、これまでにBBCフィルと8枚のCDをリリース。また関西フィルとはALM RECORDSにシベリウス交響曲全曲録音を進行中。

大晦日のテレビ東京系全国ネット「東急ジルベスター・コンサート」に2回、2012年NHK大河ドラマ「平清盛」の劇中音楽の指揮、「題名のない音楽会」をはじめとするテレビ、ラジオへの出演など、活躍の場は枚挙に暇がない。

なかでも番組の立ち上げに参画し、指揮・司会として関西フィルと共に出演中のBSテレビ東京『エンター・ザ・ミュージック』（毎週土曜朝8:30）は2020年10月に7年目に突入、放送300回を超える人気番組。

2002年渡邊暁雄音楽基金音楽賞受賞。

東大阪市特別顧問、滋賀県長浜市文化観光大使、きょうと城陽応援大使。

公式ファンサイト <http://www.fujioka-sachio.com/>

指揮：伊藤康英 Ito, Yasuhide (交響詩「ぐるりよど」のみ)

本学教授／グリーン・タイ ウインド・アンサンブル授業担当責任者

<http://www.itomusic.com>

Programme

A.リード／音楽祭のプレリュード (約4分40秒)

Alfred Reed (1921-2005, America) / A Festival Prelude (1957)

L.セラーノ・アラルコン／小組曲 [日本初演] (約12分30秒)

Luis Serrano Alarcón (*1972, Spain) / Pequeña Suite (2008) - Japan premiere

1 イントラータ 2 ワルツ 3 子守歌 4 ギャロップ

1 Intrata 2 Vals 3 Nina 4 Galop

L.セラーノ・アラルコン／演奏会用パソドブレ「ラ・リラ・デ・ポズエロ」 [日本初演] (約5分15秒)

Luis Serrano Alarcón (*1972, Spain) / La Lira de Pozuelo, Pasodoble (2010) - Japan premiere

C.T.スミス／フェスティヴァル・ヴァリエーションズ (約10分)

Claude T. Smith (1932-87, America) / Festival Variations (1982)

intermission

R.クルカ／組曲「善良な兵士シュヴェイク」Op.22より (約9分30秒)

Robert Kurka (1921-57, America) / From "The Good Soldier Schweik, Suite" Op.22 (1957)

1 序曲 2 ラメント 6 フィナーレ

1 Overture 2 Lament 6 Finale

伊藤康英／交響詩「ぐるりよぎ」より第1楽章 (約7分30秒)

Ito, Yasuhide (*1960, Japan) / 1st movement from "Gloriosa", Symphonic Poem for Band (1990)

Ph.スパーク／ドラゴンの年 (約14分45秒)

Philipe Sparke (*1951, England) / The Year of the Dragon (1984)

1 トッカータ 2 間奏曲 3 フィナーレ

1 Toccata 2 Interlude 3 Finale

指揮：藤岡幸夫

伊藤康英 (伊藤作品のみ)

本日のプログラム概説

かつて、本学でも客員教授として教鞭を執っていたアルフレッド・リード氏の《音楽祭（フェスティバル）のプレリュード》で幕を開けましょう。

「フェスティバル」つまり「祭」は、洋の東西で異なるかもしれないが、日本では、祈りや慰霊などが込められており、コロナの時代のコンサートの幕開けにふさわしい。

なお、本日のプログラムには、同じく「祭」を冠した《フェスティバル・ヴァリエーションズ》が、また、「祈り」と題した交響詩《ぐるりよぎ》も擁している。

「祭」と「祈り」を通じて最後は「龍（＝ドラゴン）」でプログラムを締め括る。龍はアジア圏では福を呼ぶ縁起の良いものとされている。コロナの日々をいつか抜け出す守り神に象徴させよう。

《音楽祭のプレリュード》と、プログラム後半の冒頭にお届けする《善良な兵士シュヴェイク》、共に1957年の作曲とは偶然である。往時のアメリカの音楽界に思いを致す。そして《フェスティバル・ヴァリエーションズ》は1982年の作曲、《ドラゴンの年》は1984年（吹奏楽版は1985年）の作曲、と80年代の作品も並んでいる。思えば、80年代は、吹奏楽のテクニカルな側面が大いに開拓され、華やかなレパートリーが傑出し始めた時代だったのではなからうか。

こうした年代（スコアもパート譜も手書き浄書の時代。学生たちはさぞかし面食らったことだろう）を振り返り、現在の吹奏楽の隆盛の原点を知り、そうしてプログラムには伊藤作品（1990年作曲）、そして日本初演となる2つのアラルコン作品（2008年、2010年作曲）を織り込む。日米英西のレパートリーが並ぶ。

本年度はアラルコン氏を指揮にお呼びする予定であり、実現すれば、アラルコン氏が初めて日本で指揮をされる記念すべき機会となるはずであった。

アラルコン氏を日本に紹介してくれたのは、GWE（グリーン・タイウインド・アンサンブル）を2017年から19年にかけて指揮されたティモシー・レイニッシュ氏であり、レイニッシュ氏は、本日の指揮者・藤岡幸夫氏のイギリスでの師匠にあたる。さまざまなご縁が繋がっていったことを嬉しく思う。またレイニッシュ氏をGWEにお招きできたのは、藤岡氏の多大なご協力によるものである。ここに記して藤岡氏に感謝の意を表したい。



2019年7月12日、アラルコン出身地スペインのチバにて
右から、ティモシー・レイニッシュ氏、同夫人、アラルコン氏

さて、今年の吹奏楽授業は、「オンライン」にて始まり、6月末からようやく「対面」すなわち通常の合奏となった。とは言っても、人数を限って、時間を限って、などこれまでとは異なる状況での合奏だ。グリーン・タイウインド・アンサンブルは120名以上を擁する大所帯であり、通常は70名80名と大人数でステージに乗っていたところが、40名以下に絞って合奏授業が開始された。

そのこともあり、本日はできる限り演奏の最少人数に絞った編成で演奏する。概ね40名から50名程度での「ウインド・アンサンブル」となる。

アメリカでしばしば見られる大編成の「シンフォニック・バンド」ではなく、「ウインド・アンサンブル」、つまり、必要最小限の人数で演奏するという形態は、これまで本学ではなかなか実践できなかったが、今年は、少人数でよく音を聴き合う、よいリハーサルができたと思う。一人一人の音楽性を存分に発揮させる演奏になったらと思う。

そこで、日本では珍しいクルカの作品も取り上げることとした。16人編成の作品である。こうした少人数に書かれた作品を取り上げるのも今年ならではのあり、GWEならではの取り組みである。

結果、かなり難易度の高い作品群への挑戦、といったプログラムとなった。また、今年度たった一度っきりの演奏会となったため、あれやこれやと詰め込み、《ぐるりよぎ》も1楽章だけ、クルカも3つの楽章のみ、という構成になった。

学生たちはこの「ウインド・アンサンブル」に一生懸命に取り組めます。応援いただけましたら幸いです。

（伊藤）

作品について

音楽祭のプレリュード (A. リード)



Alfred Reed (1921-2005)
ニューヨークで生まれる。トランペットをはじめに学び、のちに作曲を学ぶ。多数の吹奏楽作品を作曲しており、その数は200曲に及ぶ。日本では中高生の間でも親しまれている。1988年度から2004年度まで、本学の客員教授を務められた。

日本の吹奏楽の父とも言える秋山紀夫氏が、リード氏から、「今度こんな楽譜が出版された」と受け取り、1970年の全日本吹奏楽コンクールの課題曲として推し、日本で大いに演奏されるようになった。

当時、音楽之友社の子会社であった東亜音楽社から、日本国内向けに出版（「サブ・パブリッシング」と呼ぶ）。その際に《音楽祭のプレリュード》と訳されたため、今でもこのタイトルで知られる。そもそもの委嘱がアメリカのオクラホマ州での「トライ＝ステート音楽祭」の25周年の記念だったこともあって「音楽祭」と訳されたのかもしれない。

華やかさと叙情性を持ち合わせた本作は、コンサートの幕開けに相応しいものとして、今でもしばしば取り上げられる。

なお、日本ではリード氏に関して、村上泰裕氏の詳細な研究がある。興味がおありの方は是非。

<https://y-murakami.jimdofree.com/>

村上氏には、当グリーン・タイ ウインド・アンサンブル（以下、GWE）のプログラムにもご寄稿いただいたことがある。

小組曲 (L. セラーノ・アラルコン)



Luis Serrano Alarcón
(*1972)

スペインのバレンシア生まれ。主に吹奏楽の作曲家としての活躍が目立つが、指揮者としても多くの交響楽団を指揮している。ティモシー・レイニッシュ氏は「今日の吹奏楽作曲家において、彼は間違いなく最も傑出した作曲家の一人である」と語る。

ルイス・セラーノ・アラルコン氏は、父方の苗字（＝セラーノ）と母方の名前（＝アラルコン）、その両方をとり、「セラーノ・アラルコン」が苗字となる。が、海外でも一般的に呼ばれているように、以降「アラルコン」と記す。ご本人も、「アラルコン」と呼ばれるのは不思議だ、と言ってはいるが。

欧米、そしてアジアでも人気のスペインの作曲家であるが、これまで日本では知られていなかった。GWEがティモシー・レイニッシュ氏を指揮にお迎えした際のレパートリーとして、2017年に《ドゥエンデ》、2018年には《コンチェルトタンゴ》（第1楽章のみ）をそれぞれ日本初演した。また、2018年にアラルコン氏が個人的に初来日された際には、GWEにてワークショップを開催（2018年7月26日）[写真]、その後、GWEでのコンサートの客演指揮を本年度に予定していたのだが、残念ながら実現できなかった。

昨年の全日本吹奏楽コンクール全国大会で、《インヴォカシオン》が演奏されたことで、近年、ようやく日本での人気も高まりつつある。

作品は、スペインの出版社 Piles から発売されているが、近年では Alarcon Music から出版している。

《小組曲》は、2008年の作曲。細かい解説は不要だろう。リードが何曲か遺した「組曲」の一步先に行く、とでもいった痛快な作品である。

演奏会用パソドブレ「ラ・リラ・デ・ポズエロ」 (L. セラーノ・アラルコン)

二拍子のマーチに似たスペイン独特の「パソドブレ」にはさまざまな種類がある。闘牛のためのパソドブレ、各地方のパソドブレ、コンサート用パソドブレ、祭りなどで街を練り歩く際のパソドブレなどである。

地域のパソドブレとしては、マドリッド、バレンシア、ガリシア、アンダルーシアとがあり、それぞれテンポや雰囲気も異なる。たとえば、バレンシアのものは遅く（メトロノームで 82 から 96）、マドリッドでは 108 から 120、ガリシアでは 100 より遅く、という具合。

この作品は、コンサート用のもので、メトロノームは 110 と記されているので、比較的テンポが速い部類になるだろう。

ラ・リラ・デ・ポズエロ音楽文化協会創立 20 周年を記念して作曲。

これも詳しい説明は不要だろう。スペインの情緒を纏いながら、中間部での甘美なメロディが印象的である。



2018年7月26日、グリーン・タイウインド・アンサンブルにおけるアラルコン氏のワークショップより



フェスティヴァル・ヴァリエーションズ (C.T. スミス)



Claude T. Smith (1932-87)

ミズーリ州モンローシティで生まれ、ホルンと作曲を学ぶ。兵役での軍楽隊を経て、米軍楽隊の委嘱作品を中心に指揮者としても活躍した。吹奏楽をはじめ合唱曲、管弦楽、室内楽など多様な作品を数多く遺す。

不思議なことに、「ヴァリエーションズ」つまり「変奏曲」と題されているのに、この作品は変奏曲の形態を採らず、比較的わかりやすい「急 - 緩 - 急」の形式となっており、陽気で痛快な音楽となっている。

アメリカの卓越した吹奏楽団といえば、空軍バンド（エアフォース・バンド）と海兵隊バンド（マリン・バンド）の2つが挙げられる。その空軍バンドとゲイブリエル大佐のために 1982 年に書かれたが、これまでに吹奏楽でこれほどの難曲が書かれたことはなかっただろう。今から振り返ると、この作品の出現で、吹奏楽の高度な技術の可能性を知ることとなり、吹奏楽が大いに発展した。また、以来、空軍バンドから委嘱を受けた作曲家たちはこぞって難曲を書くようになった。たとえば、スパークの《ダンス・ムーヴメント》、デ・メイの《交響曲第 2 番「ビッグ・アップル」》など。

ところで、スミスのウェブサイトには、作品一覧表があり、以下からダウンロードできる。

<https://bit.ly/33pOF3T>

吹奏楽作品は 120 作近く書かれたが、その中で、《華麗なる舞曲》とこの《フェスティヴァル・ヴァリエーションズ》の 2 曲だけは、グレード「6+」と書かれている。特にこの曲のホルン・パートの難しさは有名で、当時、空軍バンドの首席ホルン奏者だったジョニー・ウディー氏と、作曲家スミスとがライバル関係にあったからだと言われる。

そのことについて、ウディー氏自身が語った資料（日本語）があるので参考まで。

<https://yamaha.io/2VgDWnL>

なお、委嘱したゲイブリエル大佐の指揮による演奏が、空軍バンドのウェブサイトから無料で聴くことができる。

組曲《善良な兵士シュヴェイク》より (R. クルカ)



Robert Kurka (1921-57)

イリノイ州シセロで生まれる。ダリウス・ミヨーとオットー・ルーニングに作曲を学び、ニューヨークの3つの大学で教鞭を執った。交響曲、弦楽四重奏、ピアノ、合唱のための作品なども書いている。

16人編成の管楽器、打楽器のアンサンブルによる6つの楽章からなる組曲。編成は以下の通り。特に楽器の持ち替えはない。

1 Flute
1 Piccolo
1 Oboe
1 English Horn
1 Clarinet
1 Bass Clarinet
1 Bassoon
1 Contrabassoon
3 Horns
2 Trumpets
1 Trombone
Snare Drum
Timpani

本日は、オペラ中、第1幕に現れる曲の中から3曲を。(序曲)(オペラの序曲でもある)に引き続き、〈ラメント〉(悲しみ)、そして第1幕幕切れの音楽〈フィナーレ〉である。

ユーモア作家、風刺作家のヤロスラフ・ハシェク(1883-1923 チェコ)の同名の代表作を基にしている。この小説は『兵士シュヴェイクの冒険』と題して日本語にも訳されている。兵士シュヴェイクが、第一次世界大戦で出会う滑稽な事件の数々を描いた未完の連作短編。反戦の小説である。

1956年に英訳が出版され、それに興味を持ったクルカは、16名の管楽合奏のための組曲を作り、その後、それを拡大してオペラ化、1957年の完成後ほどなくこの世を去った。オペラのオーケストレーションは、ハーシー・ケイ(1919-1981)によって完成された。(ケイは、バーンスタインの《オン・ザ・タウン》のオーケストレーションを行っていることなどでも知られる)。

その後1958年にオペラが初演された。風刺的で皮肉を含み、ポピュラーなスタイルの音楽という点で、クルト・ワイルなどとも比較される。

オペラ全体のあらすじなど、日本語訳されていないが、本日お届けする第2曲〈ラメント〉は、原作ではシュヴェイクが歌うアリアになっているので、歌詞を訳しておく。

誰が戦争に行くのか。

誰が笛や太鼓を鳴らして行進するのか

誰が兵士にしがみついたため息をつくのか。

誰がキスして、泣いて、悲しく手を振り、最後の「さよなら」を言うのか。

英雄が帰還する。笛と太鼓と輝く勲章を持って。

英雄が帰還する。手も足も目も失って。

誰が戦争に行くのか。

誰が笛や太鼓を鳴らして行進するのか。

誰が子供をあやすのか。

みんな泣くがよい。石のように冷たく横たわる人のために。

交響詩《ぐるりよぎ》より第1楽章「祈り」 (伊藤康英)



Ito, Yasuhide (*1960)

1993年より洗足学園音楽大学に務め始め、歌曲伴奏法、オペラ指揮、作曲理論等を担当。2004年からフレッシュマン・ウインド・アンサンブル、2009年よりグリーン・タイウインド・アンサンブルを担当。

1990年に、海上自衛隊佐世保音楽隊の委嘱により初演された3楽章からなる作品。長崎県の隠れキリシタンに素材を得て作曲。

第1楽章は、古くからスペインに伝わるマリア賛歌〈O, gloriosa domina〉〔譜例〕をもとにした13からなるディフェレンシアス(変奏曲)。この歌は、キリスト

教が日本に伝来した際に、日本に伝えられたと言われ、「グロリオザ」というラテン語は長い禁教の時代を経て、「ぐるりよざ」というように訛っていった。

本年2月に、ミニチュア・スコアが音楽之友社から出版、先ごろ、そのスコアに基づいた新しいスコアとパート譜のセットが上梓された。

本日はその楽譜に基づいての演奏ではあるが、以前に、いくつかのオプション楽器のための楽譜を書いたことがあり、以下の楽器を追加して演奏する。

2nd Oboe
English Horn
2nd Bassoon
Contrabassoon
Contrabass Clarinet
Harp

ただしこの楽譜は未出版である。

なお、この作品には管弦楽版（2008）もあり、第1楽章のピアノ独奏版もある。

譜例 O, gloriosa domina

O glo - ri - o - sa Do - mi - na
ex - cel - sa su - per si - de - ra
qui te cre - a - vit pro - vi - de
la - cta - sti sa - cro u - be - re.

注:このメロディは、16世紀前半には、スペインの作曲家・ビウエラ（6弦の弦楽器）奏者であるナルバエス（Luys de Narváez, 1500-1555 から 1560）作曲の《聖歌「O, Gloriosa Domina」による6つのディフェレンシアス》のメロディとしても使われており、もしかしたらキリスト教伝来に際して、日本にもこの曲がもたらされたのかもしれない。

当時、織田信長や豊臣秀吉が西洋音楽を聴いたという記録もある。この時代の西洋音楽の日本への輸入については、今後、さらに研究が進むと思われるし、西洋音楽が日本に与えた影響についても研究が進むだろう。

ドラゴンの年 (Ph. スパーク)



Philippe Sparke (*1951)

ロンドンで生まれ、ピアノやヴァイオリンから音楽に触れる。また、王立音楽大学在学中にトランペット、ピアノ、作曲を学ぶ。ブラスバンド作品を元に吹奏楽編曲をすることが多く、今回演奏する作品もその中の一曲である。本学客員教授。

《宇宙の音楽》などの作品で不動の人気を誇るスパークの、比較的初期の作品。こうした初期の作品には、その後に書かれた作品を繙くキーワードが含まれていることが多いので、《ドラゴンの年》を知っておくことは、スパークの多くの作品を知る手がかりとなろう。

イギリスでは、吹奏楽よりもブラスバンド（ブリティッシュ・ブラスバンド）のほうが盛んであり、この作品ももともとはブラスバンドのために作曲された。翌年吹奏楽に編曲。2017年には、シエナ・ウインド・オーケストラの委嘱により、新しくオーケストレーションされた「2017年版」が作られ、打楽器などが多数加えられた一層華やかなものとなった。本日は、当初の吹奏楽版での演奏となる。

なお、スパーク自身が演奏法についてインターネットに書き込んでいる。

第1楽章冒頭は「悪意を持って」開始され、スネアドラムはなるべく大きく。とか、第3楽章最後の大太鼓は、「ハデスの門が閉まるように」といったように。

<https://bit.ly/37fSPwd>

ハデスとは、ギリシャ神話の冥府の神。すなわち、地獄の門が閉まる音、というわけだ。

ウェールズのブラスバンド、コーリー・バンド創立100周年を記念して書かれた。ウェールズの国旗に描かれウェールズのシンボルと言える赤い竜にちなんで、この題名が付けられた。



2017年6月22日 グリーン・タイ ウインド・アンサンブル(指揮:藤岡幸夫)公演

学園の色の一つ「緑」を冠した吹奏楽団。2009年、作曲家・伊藤康英と共に始動。作曲家の視点を交えた楽曲分析やこだわりの選曲が特徴。これまでに、ダグラス・ポストック氏とは、10回にわたる「古典名曲シリーズ」を継続、日本初演、世界初演曲も数多く紹介してきた。また、ティモシー・レイニッシュ氏ら名だたる指揮者を招聘。藤岡幸夫氏がナビゲーションを務めるBSジャパンの人気クラシック番組「エンター・ザ・ミュージック」にもたびたび出演。また、台湾、シンガポール、韓国にて交流演奏会を行っており、広くアジアにも多くのファンを擁する。

2020年度 グリーン・タイ ウインド・アンサンブル メンバー

Concertmistress

原田 優

Inspector

朝日 可奈子

山内 菜摘

青柳 はる夏

Flute

甲斐 真琴*

加藤 美咲

小牧 茄央里

瀬川 結未

谷野 菜月

藤田 真生

佐藤 亜紀

足立 柚寿

谷口 愛海

佐野 鈴菜

土持 志織

Oboe

朝日 可奈子

上原 史織*

末松 美香

Clarinet

杉浦 宝瑠	田代 三葉*	原田 優	石橋 優安	洞口 菜々子
宮川 愛莉果	山本 夢	大木 舞	上條 里彩	福永 愛華
伊藤 眞緒	笠 歌純			

Bassoon

高橋 遥*	塩谷 花笑	上治 唯奏		
-------	-------	-------	--	--

Saxophone

網本 眞子*	合田 桜花	望月 栄賜	鮎澤 莉香子	鹿島 理功
加福 夏子	國澤 美空	船木 彩香	谷口 綾乃	岸本 楓
高橋 星良	田中 亜耶	松岡 梨帆	山岸 咲野	

Horn

佐藤 駿 ^b	浅田 万結	西川 宗辰*	半崎 愛理	須藤 彩華 [#]
-------------------	-------	--------	-------	--------------------

Trumpet & Cornet

飯塚 亜実	井上 優佳	大川原 成美*	山内 菜摘	石川 芽生
石垣 静流	垣本 真夢	神山 巧弥	草野 あんず	居石 まどか
中山 亜実	水谷 樹里	磯野 沙弥香	植田 優花	佐々木 右京
堀江 風雅				

Trombone

石田 薫*	佐野 陽歩	南崎 直子	山口 智代	櫻井 美湖
高木 咲希	津吹 亮汰	米村 麻優	長坪 海斗	永吉 彩花
謝 慕揚 ^b				

Euphonium

谷田 果奈美*	岩渕 由羽			
---------	-------	--	--	--

Tuba

加藤 惇	長房 美久*	岡田 侑也	下田 真寛	寺崎 栞
------	--------	-------	-------	------

Contrabass

中川 綾音*	伊藤 令華	稲垣 理有 [#]		
--------	-------	--------------------	--	--

Percussion

青柳 はる夏*	金 蘭花	鈴木 脩平	高山 かほ	松田 紗枝
山本 晃弘	小栗栖 未久	佐竹 絵磨	福光 真由	森 奈那子
榎本 耀	大石 水紀	北山 絢萌	田代 万莉子	田村 奏帆
林 英希	林 拓海	前田 伶弥	八木 優弥	

Piano

磯崎 春菜 [#]				
--------------------	--	--	--	--

Harp

山内 悠里佳 [#]				
---------------------	--	--	--	--

[#]…演奏補助要員 ^b…賛助 ^b…団長 *…パートリーダー

合奏指導教員 伊藤 康英／近藤 久敦 企画運営責任者 伊藤 康英

アカデミックコーディネーター 大島 健太郎

広報 高橋 遥／合田 桜花

*本年度は、オンライン授業受講者もいるため、このメンバー表には、本日出演しない学生も含まれています。

Flutes & Piccolo



Saxophones



Oboes & Bassoons



Horns



Clarinets



Trumpets & Cornets



Euphoniums



Trombones



Tubas



Percussion



洗足学園音楽大学 グリーン・タイ ウインド・アンサンブル 演奏曲目一覧

● 2009 年度

- ◇ 7 月 12 日 指揮：伊藤康英
諏訪雅彦 16 世紀のシャンソンによる変奏曲
伊藤康英 「昔の歌に寄せて」～ヴァイオリンと吹奏楽のための協奏曲（3 楽章版初演）
ヴァイオリン独奏：水野佐知香
伊藤康英 こきりこ行進曲
高 昌帥 パンソリック・ラブソディ
伊藤康英 広島朝の歌（アンコール）
伊藤康英 木星ファンタジー
伊藤康英 マーチ「一度っきりの人生」

- ◇ 12 月 6 日 指揮：ダグラス・ボストック
N.dello Joio 中世の旋律による変奏曲
P.A.Grainger ローマの権力とキリスト教徒の心
D.Bedford 波濤にかかる虹
J.B.Chance 朝鮮民謡による変奏曲
Ph.Sparke ダンス・ムーヴメント

- ◇ 3 月 指揮：伊藤康英／ダグラス・ボストック
台湾新竹市・台北市（國家音楽廳）
管樂狂潮（台湾・新竹教育大学との合同演奏会）
伊藤康英 広島朝の歌
伊藤康英 地球
伊藤康英 台湾花束

● 2010 年度

- ◇ 7 月 21 日 指揮：ダグラス・ボストック
～吹奏楽の古典名曲を名匠ボストックと vol.1～
G.Holst 吹奏楽のための第 1 組曲 変ホ長調
D.Milhaud フランス組曲
I.Stravinsky エボニー・コンチェルト
クラリネット独奏：山本茉莉奈（4 年）
P.Hindemith 交響曲変口調
P.A.Grainger リンカンシャーの花束

- ◇ 11 月 27 日 指揮：本名徹次
For the Green Earth 「展覧会の絵」～緑の地球のために
三善 晃 札幌オリンピック・ファンファーレ
矢代秋雄 吹奏楽のための祝典序曲「白銀の祭典」
野田暉行 吹奏楽のための典礼風序曲
伊藤康英 三部作「惑星」より「地球」
M.P.Moussorgsky 伊藤康英版「展覧会の絵」（2 台 8 手ピアノ、サクソフォーン四重奏、混声合唱と吹奏楽のための交響的カンタータ）（アンコール）
トラディショナル（伊藤康英） アメイジング・グレイス
伊藤康英 一度っきりの人生

● 2011 年度

- ◇ 7 月 18 日 指揮：ダグラス・ボストック
～吹奏楽の古典名曲を名匠ボストックと vol.2～
夜から朝へ Night and Day
A.Copland エンブレムス
G.Holst 吹奏楽のための第 2 組曲へ長調
P.A.Grainger 民主主義行進の歌／コロニアル・ソング／ガム・サック
カーズ・マーチ
武満 徹 ナイト・シグナル
伊藤康英 明けない夜は無い（世界初演）
A.Roussel 栄光の日
F.Schmitt ディオニソスの祭（アンコール）
伊藤康英 にっぽんモーリス

- ◇ 11 月 26 日 指揮：増井信貴・鄭哲男・伊藤康英

- 高 昌帥 吹奏楽のためのラメント
西村 朗 秘儀 I 管楽合奏のための
保科 洋 吹奏楽のためのカプリス（2005 改訂版）
伊藤康英 サクソフォーンとユーフォニアムのための二重小協奏曲「カーニヴァルの日」（世界初演）
サクソフォーン独奏：小林 悟（4 年）
ユーフォニアム独奏：幸崎 仁（4 年）
★台湾国立新竹教育大学（現・清華大学）管楽団と合同で
伊藤康英 相馬フェスティバル・マーチ
陳 樹熙 客家風狂詩曲（日本初演）
伊藤康英 吹奏楽のための交響詩「ぐるりよざ」
龍笛独奏：吉川真登（アンコール）
高野辰之（伊藤康英） ふるさと（新編曲・初演）
伊藤康英 マーチ「一度っきりの人生」

● 2012 年度

- ◇ 7 月 11 日 指揮：秋山和慶
伊藤康英 交響詩「コラル幻想曲」
長生 淳 香り立つ刹那
新垣 隆 吹奏楽のための小品
G.Gershwin（伊藤康英） ラブソディ・イン・ブルー
ピアノ独奏：伊藤康英
G.F.Handel（伊藤康英） 王宮の花火の音楽より序曲
J.S.Bach（伊藤康英） シャコンヌ（アンコール）
J.S.Bach（伊藤康英） G 線上のアリア（新編曲・初演）
伊藤康英 マーチ「一度っきりの人生」

- ◇ 12 月 15 日 指揮：ダグラス・ボストック
～吹奏楽の古典名曲を名匠ボストックと vol.3～
R.Vaughan Williams イギリス民謡組曲（第 2 楽章として「海の歌」を含む）
R.Vaughan Williams 交響曲第 8 番より第 2 楽章「行進曲風スケルツォ」
P.A.Grainger ヒル・ソング第 2 番
P.A.Grainger フムフレイの若者たちの行進曲
V.Nelhybel トリティコ
K.Husa ブラハのための音楽 1968（アンコール）
P.A.Grainger デリー地方のアイルランド民謡

● 2013 年度

- ◇ 7 月 3 日 指揮：秋山和慶
時は逝く As Time Is Passing On
兼田 敏 吹奏楽のための寓話
藤田玄播 天使ミカエルの嘆き
M.P.Moussorgsky（伊藤康英編曲） 歌劇「ソロチンスクの市」より「聖ヨハネ祭の夜」
伊藤康英 貝殻のうた
高 昌帥 優しい花たちへ
伊藤康英 交響詩「時の逝く」（アンコール）
にっぽんモーリス

- ◇ 11 月 11 日 指揮：ダグラス・ボストック
吹奏楽の古典名曲を名匠ボストックと Vol.4
アメリカへ An American Connection
D.Milhaud ウェスト・ポイント組曲
P.A.Grainger ローマの権力とキリスト教徒の心
A.Schoenberg 主題と変奏
黛 敏郎 打楽器協奏曲
V.Nelhybel 復活のシンフォニア

● 2014 年度

- ◇ 7 月 12 日 指揮：ダグラス・ボストック
～吹奏楽の古典名曲を名匠ボストックと vol.5～
P.A.Grainger モールバラ伯爵のファンファーレ
R.Vaughan Williams トッカータ・マルチアーレ
G.Holst ハマースミス 前奏曲とスケルツォ
D.Bedford 波濤にかかる虹
P.A.Grainger 子供のマーチ「丘を越えてかなたへ」

三善 晃 スターズ・アトランピック'96
J.Absil 祭典 op.79 (日本初演)

◇7月21日(吹奏楽の祭典) 指揮:大滝 実
S.Rachmaninoff (伊藤康英) 交響的舞曲より第1楽章
初演)

◆12月7日 指揮:増井信貴/プレトーク:滝澤尚哉
英
フェネルがわたしたちに伝えたかったもの What Frec
C.Williams ファンファーレとアレグロ
R.R.Bennett シンフォニック・ソング
G.Holst (伊藤康英校訂) 吹奏楽のための第1組曲
J.B.Chance 朝鮮民謡による変奏曲
伊藤康英 管楽器のための序曲
R.Strauss (伊藤康英) 万霊節 op.10-8 (新編曲・初演)
R.Nelson モーニング・アレレヤ
群馬県民謡(岩井直博) 八木節
J.P.Sousa 海を越える握手
H.Fillmore ヒズ・オナー
(アンコール)
伊藤康英 Get Well, Maestro
伊藤康英 マーチ「一度っきりの人生」

●2015年度

◇6月24日 指揮:藤岡幸夫
J.Barnes 祈りとトッカータ
S.Rachmaninoff (伊藤康英) 交響的舞曲より第1楽章
西村 朗 秘儀III—旋回舞踏のためのヘテロフォニー
伊藤康英 吹奏楽のための交響詩「ゴー・フォー・ブローク」
R.Wagner (伊藤康英) 歌劇「ローエングリン」第2幕より「エ
ルザの大聖堂への行列」(新編曲初演)
R.Schumann (伊藤康英) 歌曲集「ミルテの花」より「献呈」(初演)
A.Reed 第2交響曲
(アンコール)
A.Reed 第2組曲より「ソーン・モントゥーン」
伊藤康英 マーチ「一度っきりの人生」

◇12月12日 指揮:ダグラス・ポストック
吹奏楽の古典名曲を名匠ポストックと Vol.6
チェコからの風 The Czech Connection
L.Janáček「シンフォニック」よりソコル・ファンファーレ
K.Husa アル・フレスコ
V.Nelhybel 吹奏楽とピアノ独奏のための「トッカータ・フェロー
チェ」(日本初演)

ピアノ独奏:遠藤龍軌(2年)
A.Reed アルメニアン・ダンス・パート2
伊藤康英 彼がわたしたちに語ったこと バリトン、ソプラノと
吹奏楽のために(日本初演)
バリトン独唱:泉 良平(客員教授)
ソプラノ独唱:伊藤紫央里(本学卒)
Eb コルネット:植竹祐太(4年)
P.A.Grainger 固定されたド(自鳴するC)
F.Ticheli エンジェルス・イン・ジ・アーキテクチャー
ソプラノ独唱:伊藤紫央里
(アンコール)

J.Fučík フロレンティーナ行進曲
伊藤康英 マーチ「一度っきりの人生」

●2016年度

◇7月15日 指揮:藤岡幸夫
吹奏楽傑選 藤岡幸夫と伊藤康英が選ぶ神7!
三善 晃 吹奏楽のための「クロス・バイ・マーチ」
J.A.Caudill バンドのための民謡
R.Jager シンフォニア・ノビリッシマ
F.Schubert (伊藤康英) アヴェ・マリア(エレンの歌 第3番)(新
編曲・初演)
河辺公一 高度な技術への指標
L.Bernstein プレリユード、フーガとリフ
クラリネット独奏:大森雅弘(4年)
V.Nelhybel 復活のシンフォニア(V.Nelhybel)
伊藤康英 吹奏楽のための序曲「平和と栄光」

副指揮:竹内健人(4年)
(アンコール)
カタロニア民謡(伊藤康英) 鳥の歌(新編曲・初演)
トロンボーン独奏:松原昇平
伊藤康英 マーチ「一度っきりの人生」

◇12月6日《指揮:ダグラス・ポストック》
~吹奏楽の古典名曲を名匠ポストックと vol.7~ 温故知新 Old
Wine in New Bottles
G.F.Handel「王宮の花火の音楽」より序曲 ブーレ 歓喜(新編
曲・初演)
Ph.Sparke リフレクションズ~ある古い日本俗謡による
伊藤康英 津軽三味線協奏曲
津軽三味線独奏:山中信人(本学講師)
津軽三味線合奏:稲沢栄梨 谷川祐司 塚本鷹 塚本準也 横田
匡
P.A.Grainger リンカンシャーの花束
E.Gregson 剣と王冠

●2017年度

◇6月22日 指揮:ティモシー・レイニッシュ/藤岡幸夫
P.A.Grainger 民主主義行進の歌
G.Holst (伊藤康英校訂) 吹奏楽のための第1組曲
J.S.Bach (伊藤康英) シャコンヌ(2017新編曲・初演)
K.Hesketh ダンスリーズ
L.S.Alarcón ドウエンデ 吹奏楽のための4つの前奏曲(日本初
演)
A.Gorb イディッシュ・ダンス
(アンコール)
J.Brahms (伊藤康英) 日曜日/恋人のもとへ
伊藤康英 マーチ「一度っきりの人生」

◇12月12日 指揮:ダグラス・ポストック
古典名曲を名匠ポストック氏と Vol.8
イギリスとフランスとの長い戦争の歴史を振り返りながら、今、
考える平和。Anglo-French Gala
L. van Beethoven (伊藤康英) 交響曲「ウェリントンの勝利また
はヴィットリアの戦い」作品91(新編曲・初演)
R.Vaughan Williams イギリス民謡組曲
F.Schmitt ディオニソスの祭
D.Milhaud フランス組曲
伊藤康英 グリーンスリーヴスの主題による幻想曲(世界初演)
E.Gregson 王たちは出陣する
(アンコール)
伊藤康英 マーチ「一度っきりの人生」

◇2018年3月9日 指揮:伊藤康英/ダグラス・ポストック
台湾新竹市
管樂狂潮(台湾・清華大学との合同演奏会)
伊藤康英 煌夜~祭の幻想
伊藤康英 グリーンスリーヴスの主題による幻想曲
伊藤康英 交響詩「ぐるりよざ」
A.Reed アルメニアン・ダンス パート1
P.A.Grainger 子供のマーチ「丘を越えてかなたへ」
Ph.Sparke 宇宙の音楽

●2018年度

◇7月1日 指揮:ティモシー・レイニッシュ
ティモシー・レイニッシュ 80歳記念
戦争と平和 War and Peace
A. Gorb アウェイデイ
G.Woolfenden イリュリア人の踊り(日本初演)
D.del Tredici 戦時に
L.S.Alarcón コンチェルトタンゴより第1楽章(日本初演)
アルト・サクソフォーン独奏:荒木真寛(4年)
伊藤康英 タイム・イントゥ・ミュージック(日本初演)
C.Marshall ロム・アルメ(武装した人) 変奏曲(日本初演)
(アンコール)
メンデルスゾーン(伊藤康英) 歌の翼に(新編曲・初演)
伊藤康英 にっぽんモリス

◇12月11日 指揮:ダグラス・ポストック

グリーン・タイ 10 周年記念
吹奏楽の古典名曲を名匠ポストックと Vol.9
リジョイス！ 祝賀 Rejoice!
伊藤康英 吹奏楽のための祝祭曲「集え、祝え、歌え」
O.Waespi 讃歌（日本初演）
J. シュテルト バッハザイツ
A.Hovhanness 交響曲第 53 番「星の燭光」作品 377（日本初演）
V.Nelhybel The S-S-S（砂粒・静けさ・寂しさ）（世界初演）
真島俊夫 三つのジャボニスム

● 2019 年度

◇ 6 月 25 日 指揮：ティモシー・レイニッシュ
R.Vaughan Williams (ed. F.L.Battisti) トッカータ・マルチアーレ
P.A.Grainger ローマの権力とキリスト教徒の心
高 昌帥 ウインドオーケストラのためのマインドスケープ
伊藤康英 彼がわたしたちに語ったこと バリトンと吹奏楽のため
に（日本初演）
バリトン独唱：泉 良平（本学客員教授）
K.Hesketh ダンスリーズ（セット II）

A.Gorb クレタ島の舞曲
（アンコール）
L.S.Alarcón TIM～ブリティッシュ・パソ・ドブレ（日本初演）
伊藤康英 マーチ「一度っきりの人生」

◇ 12 月 10 日 指揮：ダグラス・ポストック
V.Nelhybel アンティフォナーレ 金管六重奏と吹奏楽のために
P.A. グレインジャー コロニアル・ソング
松下 功 天空の折り～とうとき命に～
伊藤康英 ピース、ピースと鳥たちは歌う
G. ホルスト ハマースミス 吹奏楽のための前奏曲とスケルツォ
Ph. スパーク 宇宙の音楽
（アンコール）
P.A. グレインジャー 岸辺のモリー
伊藤康英 マーチ「一度っきりの人生」

● 2020 年度

（前期コンサートは、COVID-19 の影響により中止）

グリーン・タイ ウインド・アンサンブル 今年度の授業の取り組み

予期せぬ事態で迎えた新学期より、グリーン・タイ ウインド・アンサンブル（授業名：吹奏楽研究 2～4）では次のような取り組みを行い、授業を展開してきた。資料としてここに記しておくことにする。

5 月中旬から「オンライン」にて授業が開始されることとなったが、4 月の間、学生たちは不安な日々を過ごしているだろうと考え、当初の学事歴通りの日程で、一週間に一本、メッセージビデオを投稿、閲覧してもらった。

4 月 14 日 ガイダンス

4 月 21 日 グリーン・タイ ウインド・アンサンブル 授業のはじめにあたって

4 月 28 日 GWE レパトリー、ポストック氏、フェネル氏、秋山紀夫氏、世界の吹奏楽について

5 月 5 日 WASBE とか、まあいろんなことを

5 月中旬からの吹奏楽オンライン授業は、先生方との話し合いのもと、4 つの吹奏楽団（洗足ウインドシンフォニー、ブルー・タイ ウインド・アンサンブル、フレッシュマン・ウインド・アンサンブル）の合同という形で始まった。ただし、人数制限の問題があり、第 2 回以降は、クラスごととなった。さまざまなビデオを制作し、クラス共通で閲覧してもらい、伊藤は以下のビデオを作成。

「吹奏楽研究」合同授業 1

吹奏楽曲概観

Choral Etude 2 和声分析

「アルセナール」～演奏に役立つ分析

ホルスト第 1 組曲 演奏に役立つ分析

ホルスト第 1 組曲 各種の版

ホルスト第 1 組曲、第 2 組曲の成り立ちなどについて

ホルスト第 2 組曲の民謡素材

ホルスト第 2 組曲 演奏に役立つ分析

各吹奏楽クラスの共通の分析課題曲として、J.ヴァン＝デル＝ロースト《アルセナール》を設定し、分析などを学習した。

この間に、グリーン・タイでは、「リモート合奏」として、5 月 19 日に「おうちでどっきり」と題したビデオをアップロード（「ぐりんぐりん吹奏楽！Green-Tie Tube」）。

6 月 30 日から対面による授業が開始され、前期は 4 回の対面による合奏授業が実施された。

なお、授業に際しては、40 分の合奏、10 分の換気・消毒のための休憩、もちろん、学生同士の間隔は開ける等の配慮を行なった。

7 月 12 日には「悲しみから喜びへ」リモート合奏ビデオが公開された。

最終日 7 月 21 日に撮影した「悲しみから喜びへ」合奏ビデオを公開。

なお、オンラインを継続して希望している学生のために、全授業をビデオ撮影。学生閲覧用としている。

9 月からの後期授業では、前期同様のさまざまな制約や配慮のもと、対面により授業を行った。



2021年度演奏会は、7月13日（火）、11月27日（火）を予定しています。



洗足学園音楽大学

ひと、音楽、未来、世界をつなぐ。

洗足学園音楽大学は、音楽の学びと実践を通じて、
豊かな社会づくりに貢献します。